

やなせたかし年譜 2 (1937 年～1940 年)

年	出来事	世の中の動き
1937 年	東京高等工芸学校 図案科に入学(現千葉大学工学部)	中国共産党が国民党に 国共合作を申し入れ。 盧溝橋で日中両軍が衝突。 (日中戦争始まる)
1939 年	東京の田辺製菓・ 宣伝部に入社	独ソ不可侵条約を結 ぶ。 ドイツ軍がポー ランドへ侵入、第 2 次世界大戦が始まる。
1940 年	徴兵	フランス領インドに進 駐。日独伊三国同盟に 調印する。 大政翼賛 会・大日本産業報国会 が設立される。

東京高等工芸学校時代



(後列、左から 4 番目が、やなせたかし)
校舎は、山手線の田町駅から歩いて一分
の距離にあり、木造二階建ての洋風建築だ
った。しかし、1945 年 5 月の空襲で焼
けてしまった。図案科の杉山教授は「銀座
を歩いて学べ」が口癖で、やなせは積極的
に銀座を散策して学んだ。

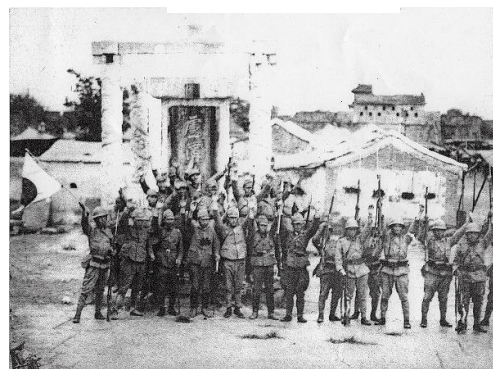
盧溝橋、宛平县城および周辺の航空写真



1937 (昭和 12) 年 7 月 7 日、盧溝橋事件に起きた。

盧溝橋は、北京西南の石橋だ。ここで日本陸軍と中国国民党軍が川を挟んだ兩岸で夜間軍事演習中、突如どこから日本側に撃込まれた謎の銃弾が、終戦まで続いた日中全面戦争の引き金となったことはよく知られている。

竜王廟を占拠



日本政府 (近衛文麿内閣) および軍中枢は自衛権の発動を口実に陸海軍を増派、事実上の戦争となったが、宣戦布告は行わず、当初は北支事変と称し、戦闘が上海に拡大した後の 9 月に支那事変と命名した。一般では日華事変とも言われたが、正式名称である「支那事変」が広く用いられるようになった。

徴兵・入営の様子(やなせたかしの著書から)

- ・第一乙種合格で、柳瀬家は代々視力が弱くて。
- ・本籍にある高知第 44 連隊本部に集合。入営は小倉第 12 師団、西部第 73 部隊。
- ・勇猛果敢なる西部第 73 部隊。炭鉱関係や荷役関係の人が多くて荒っぽい九州沖縄出身者が多い。
- ・野戦重砲隊で、山砲と呼ばれた要塞を攻撃する大砲を馬にひかせた二輪車に乗せて移動する(やなせは、馬部隊)。第一次世界大戦でドイツ軍からの接收した旧式の物。(『ぼくは戦争は大きらい』小学館)



「仲良し三国」ー

1938 年の日本のプロパガンダ葉書はドイツ、イタリアとの日独伊三国防共協定を宣伝している。

協定は、ヨーロッパ戦争、日中戦争に参戦していない国 (主にアメリカを想定) からの攻撃に対する相互援助を約束した。